

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 17 日現在

機関番号：14503

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2023

課題番号：20K13903

研究課題名（和文）共生教育のナショナルな基準と多様な実践の折衷点の探索 南アフリカ共和国を事例に

研究課題名（英文）Exploring Compromises Between the National Standard and Diverse Implementations in Education for Living Together: A Case of the Republic of South Africa

研究代表者

坂口 真康（Sakaguchi, Masayasu）

兵庫教育大学・学校教育研究科・講師

研究者番号：00819427

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、南アフリカ共和国（以下、南ア）を事例として、共生教育におけるナショナルな基準と多様な実践の折衷点を探索した。具体的には、先行研究、南アの政府文書や学校教科書等を用いた文献研究と同国西ケープ州の公立学校と教育省におけるフィールドワークを行った。そこでの研究成果としては、現代の南アでは、多様性と統一性に関わる教授/学習が、Life Orientation等の教科を通じて学校教育で取り生まれ、「市民（性）」といった概念が様々な観点から描写されていることが明らかとなったことなどが挙げられる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の成果の学術的意義と社会的意義は、南アフリカ共和国（以下、南ア）の共生社会と共生教育の特徴について、日本（語）の文脈と関連付けながら取り組まれた先行研究が限定されてきた中で、その特徴を多角的に描写したことにある。具体的には、南アの政府文書や学校教科書等の内容を取り上げるのみならず、実際にコロナ禍以後の南アにおいて共生教育に携わってきた西ケープ州教育省の行政官や中等教育段階の教育者の認識についてインタビュー調査で探索しつつ、それらの特徴を描写することに意義がある。

研究成果の概要（英文）： The purpose of this study was to explore compromises between the national standard and diverse implementations in education for living together by using the Republic of South Africa (RSA) as an example. Specifically, this study conducted literature reviews by using foregoing studies, the RSA's governmental documents, school textbooks, etc., and researches at a public school and education department in the province of the Western Cape in RSA. As a result of the study, it was revealed, for example, that in the current RSA, teaching/learning of diversity and unity is taken place in school education through subjects such as Life Orientation, and the concepts such as 'citizen(ship)' were dealt from various perspectives in them.

研究分野：教育社会学、比較教育学

キーワード：共生教育 ナショナルな基準 多様な実践 南アフリカ共和国 フィールドワーク 学校教科書 学校教員の認識 州教育省行政官の認識

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

本研究を開始した当初の背景としては、昨今の多様な文化的背景を有する人々が1つの社会の中で「共生」するための方策(教育)に関する議論が、教育社会学を始めとした様々な分野で展開されてきたことが挙げられる。特に、「人種」といった観点からのそれに関しては、「先進的」とされる欧米等の多文化社会を中心に多くの議論が営まれてきたが、そこでは主に、人々の多様性を1つの社会内で受容する際に「国民」というナショナルな枠組みが用いられ、そこに属さない人々が排除されるという課題が浮かび上がってきたことが指摘されてきた(e.g. 岡本 2013)。そのことを踏まえて、本研究には、共生教育は1つの社会における人々の多様性の尊重を促進する際に、ナショナルな基準が生み出す「国民」に属さない人々の排除という状況をいかに克服するのが課題とされてきたという想定が研究開始当初の背景としてあった。

そこで本研究では、そのような課題に取り組むために、欧米等の多文化社会とは社会・歴史的な文脈を異にする、南アフリカ共和国(以下、南ア)を対象とした分析・考察に取り組むという計画を立てた。本研究が対象とした南アには、過去に政治的マジョリティであった側の絶対性の転覆の経験を経た中で「共生」が目指されているという、多くの欧米等とは異なる特徴があることが指摘されてきた(e.g. 坂口 2018)。そのような中、過去と現在で権力構造が大きく異なる社会における「共生」のための方策(教育)はいかなる形態をとるのか、欧米等の多文化社会で批判されてきたナショナルな枠組みを乗り越えられるのか否か。本点について探究することは、既存の共生教育論を精緻化する上で意義があるという想定が本研究開始当初にはあった。

以上のことを踏まえて、本研究の開始当初は、「南ア憲法」の理念を体現するためにアパルトヘイト(人種隔離政策)撤廃後に南アの学校教育で導入された必修教科である Life Orientation (e.g. 坂口 2015)に焦点をあてた研究を行う計画を立てた。同教科では、各教員の裁量で多様な実践が営まれてきたが、近年、同教科のナショナルな基準の強化(ナショナル・テストの導入やナショナルな教科書の作成)の動きが見られることは、共生教育の中核を担ってきた同教科のあり方を変容させる可能性を生み出したと考えられた。そこで、本研究では、南アの共生教育も欧米等の多文化社会で指摘されてきた課題に直面するのか否かも含めた探索を行うこととした。

2. 研究の目的

本研究の目的は、南アを事例として、共生教育におけるナショナルな基準と多様な実践の折衷点を探索することであった。具体的には、文献研究を通じた共生社会や共生教育に関する理論的な検討や南アの学校にて共生教育の中核を担ってきた教科である Life Orientation や同教育に関わる他の科目(歴史科)に焦点をあてた検討等を行いつつ、同国西ケープ州の学校と教育省におけるフィールドワークを通じた実証的研究を行った。

そこでは主に、同州の学校教員(教育者側)および教育省の行政官(管理者側)の認識をもとに、南アの共生教育を多角的に探索することに取り組むこととした。その背後には、南アの共生教育の実践に関する分析・考察を通じて得られた知見を踏まえて、既存の共生教育論の精緻化を行うという狙いがあった。ただし、後述するとおり、2019年末より世界中で蔓延した新型コロナウイルス感染症の影響を無視することができなかつたことから、南アにおけるフィールドワークにおいては、「共生」という観点からのコロナ禍以後の同国の社会や学校の状況について探索することにも力点を置いた。

3. 研究の方法

本研究では、研究期間全体を通じて、2019年末より世界中で蔓延した新型コロナウイルス感染症の影響により南アへの渡航が困難となった中、現実的に実施可能な方法を模索しながら研究を遂行した。具体的には、南アへの渡航が困難な期間は、共生社会と共生教育に関わる理論的検討のための文献研究、南アの政府文書、ナショナルなカリキュラムや試験、学校教科書の分析・考察を研究の手法として採用した。そして、南アへの渡航がコロナ禍と比べて容易になって以降は、2022年度には南アにて学校教科書等の資料収集・情報収集を実施し、2023年度には同国でのフィールドワークを実施することでコロナ禍以後の南アの社会や学校における「共生」やそれに関わる教育の現実を探索した。具体的には、2023年6月に南ア西ケープ州の教育省と公立学校において、州教育省行政官1名と教育者3名にご協力をいただきつつ実施したインタビュー調査の内容を分析・考察した。なお、西ケープ州を選定したのは、同州が南アの他の州よりも教育水準が高いことや、「人種」等の観点から多様であることなどが指摘されてきたことから(e.g. 坂口 2015)、本研究の目的を達成する上でよりの確な事例だと考えられたためである。

4. 研究成果

本研究の成果(意義や重要性を含む)としては、主に次の5点が挙げられる。

(1) まずは、「共生」に関わる先行研究および南アや他の国々の共生社会や共生教育に関わる先行研究(e.g. Du Toit ed. 2003)のレビューや政府文書(e.g. DoE 2001)の分析・考察の成果が

挙げられる。ここでは、例えば、共生教育に関わる理論的検討を通じて、多様性と統一性の折衷点に関する議論が、学校(教員)の役割に関する議論に限らず教育の本質的問いとして議論されてきたことなどを明らかにした。また、現代の南アに関わる先行研究の検討より、同国におけるポスト・アパルトヘイトの共生教育を探索する際に留意する必要がある点などを示した。

(2) 次に、南アの学校において共生教育の中心的な役割を担う必修教科である、高等学校段階の Life Orientation の市販の教科書とナショナルな統一試験の問題および覚書(模範解答)の分析・考察の成果が挙げられる。ここでは例えば、高等学校段階の Life Orientation の任意の教科書(e.g. Rooth et al. 2013)の分析・考察を通じて、同教科では、近年の共生教育に関わる議論においても注目されてきた、「市民」概念と「国民(国家)」概念との関係性について、両者を結びつける記述とともに、それらの結びつきを超越しうる観点を示す記述(「南ア憲法」の理念の説明や元来的な「市民(性)」概念の説明など)が見受けられることなどを明らかにした。また、同教科の別の教科書(e.g. Martinuzzi et al., 2012)の探索から、同教科ではグローバルな段階とローカルな段階の両方を基軸とする形でグローバル化に関わる学習内容が設定されていることなどを明らかにした。

(3) 次に、南アの学校で「共生」に関わる教育を担う Life Orientation 以外の科目である歴史科のナショナルなカリキュラムと試験(模範解答)の分析・考察の成果が挙げられる。ここでは例えば、高等学校段階の歴史科のナショナルなカリキュラムや試験の探索を通じて、南アの歴史教育が社会構築主義的観点から営まれていることや、同教育では「権威性(統一性)」に疑問を投げかけつつ「多様性」を促進する際に、「過去」を「歴史」として解釈するための資源として文書のみならず口述記録も重視されていることなどを明らかにした。加えて、高等学校段階の歴史の教科書(e.g. Fernandez et al. 2012)の探索を通じて、同国では、ナショナリズムに関わる歴史教育が社会構築主義的立場から取り組まれていることなどを明らかにした。

(4) 次に、上述した南アでのインタビュー調査による成果が挙げられる。具体的には、同調査の結果、コロナ禍以後の南アにおける「共生」に関しては、経済的な差が「人種」よりも差別に関わる問題として学校教育関係者に認識されている側面があることなどが明らかとなった。また、学習者の経済的状況のみならず社会福祉についても、コロナ禍以降の南アの学校において重要視されている側面があることが見てきた。特に、学習者が直面するあらゆる困難がコロナ禍以降明確になったことが指摘され、例えばソーシャル・ワーカーとも連携しつつ教育者が対応にあたっている状況が浮かび上がってきた。加えて、「尊厳」や「尊重」などが現代の南アの学校において重要な価値として位置づけられており、特に必修教科の Life Orientation においてそれらの教授/学習が展開されることが奨励されている側面があることが明らかとなった。さらに、「共生」を議論する際の「コンフリクト」に関して、教育者は学習者のためにそれを解決するというよりも、学習者自身がいかにそれに向き合い対処するのかを重視しながら、その方策について Life Orientation の授業等を通じて教授しようとしている様子などが浮かび上がってきた。

(5) 最後に、本研究には、共生教育におけるナショナルな基準と多様な実践の折衷点を探索するために、同教育に関わる理論的検討により既存の議論の到達点と限界を整理しつつ、既存の議論をより精緻化するために南アを具体的事例とした探索を行った点に意義があることが挙げられる。また、現代の南アの学校における共生教育を多角的に探索するために、政府文書、ナショナルなカリキュラムや試験、学校教科書の探索を通じて全体像を描き出すと同時に、コロナ禍以後の南アの州教育省や学校で共生教育に携わる人々の認識の探索を通じて、現実の事象をもとに共生教育に関わる理論的考察を深めた点に重要性があることも指摘できる。

<引用文献>

- Department of Education [DoE] [the Republic of South Africa], *Manifesto on Values, Education and Democracy*, 2001
- Du Toit, F. ed, *Learning to Live Together: Practices of Social Reconciliation*, Institute for Justice and Reconciliation, 2003
- Fernandez, M., F. Friedman, M. Jacobs, B. Johanneson, J. Wesson, *Focus History Learner's Book Grade 11*, Maskew Miller Longman, 2012
- Martinuzzi, H., Bird, D., Haddon, C. & Dickinson, J., *Shuter's Top Class Life Orientation Grade 11 Learner's Book*, Shuter & Shooter Publishers, 2012
- 岡本 智周、共生社会とナショナルヒストリー 歴史教科書の視点から、勁草書房、2013
- Rooth, E., B. Vethe, S. Steenkamp, S. Mahuluhul, A. Ramzan, A. Seshoka & E. Eyssell, *Focus Life Orientation Learner's Book Grade 12*, Maskew Miller Longman, 2013
- 坂口 真康、南アフリカ共和国における「共生」のための教育に関する一考察 西ケープ州の高等学校を舞台とした認識のせめぎ合いに着目して、比較教育学研究、第 50 号、2015、89-111.
- 坂口 真康、市民社会と学校教育の課題、吉田武男(監) 飯田浩之、岡本智周(編)、MINERVA はじめて学ぶ教職 6 教育社会学、ミネルヴァ書房、2018、67-79

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 坂口真康	4. 巻 第68号
2. 論文標題 南アフリカ共和国における教育の普遍化と格差の現状と論点 格差是正の対策・支援と「人間の尊厳」	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 比較教育学研究	6. 最初と最後の頁 pp.202-221
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 坂口真康	4. 巻 Vol.13
2. 論文標題 南アフリカ共和国におけるグローバル化に関わる教育の一考察 高等学校段階のLife Orientationの教科書を事例として	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 アフリカ教育研究	6. 最初と最後の頁 pp.42-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 坂口真康	4. 巻 第88巻第4号
2. 論文標題 学校教育における「多様性」と「統一性」の折衷点に関する一考察 南アフリカ共和国西ケープ州の教育省行政官と学校教員の認識を事例として	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 教育学研究	6. 最初と最後の頁 pp.671-683
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Sakaguchi, Masayasu, Miku Ogawa, Andriamanasina Rojoniaina Rasolonaivo & Daisuke Sonoyama	4. 巻 Vol.12
2. 論文標題 Exploring the Concept of '(In)equality', '(In)equity', and '(Dis)parity' in the National Curricula and Examinations of Secondary Education: A Comparison Between the Cases of South Africa, Kenya, and Madagascar	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 African Educational Research Journal	6. 最初と最後の頁 pp.49-62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 坂口真康	4. 巻 第10巻
2. 論文標題 「共生」に関わる歴史教育に関する一考察 南アフリカ共和国の高等学校段階の歴史科のナショナルなカリキュラムと試験に焦点をあてて	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 共生教育学研究	6. 最初と最後の頁 pp.51-65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計12件(うち招待講演 1件/うち国際学会 1件)

1. 発表者名 Masayasu Sakaguchi
2. 発表標題 Education regarding 'Conflicts': A Case of Grade 12 Textbooks for Life Orientation in the Republic of South Africa
3. 学会等名 ERAS International Conference and WERA Focal Meeting 2023 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 坂口真康
2. 発表標題 「和解」に関する歴史教育の一考察 南アフリカ共和国の高等学校段階の歴史教科書の分析を通じて
3. 学会等名 日本社会学会第96回大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Masayasu Sakaguchi
2. 発表標題 A Discussion on History Education regarding Globalisation: A Clue from Grade 12 Textbooks in the Republic of South Africa
3. 学会等名 日本教育社会学会第75回大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 坂口真康
2. 発表標題 南アフリカの事例（ 課題研究 SDGs時代にみる教育の普遍化と格差 アフリカの事例と国際比較から読み解く）
3. 学会等名 日本比較教育学会第59回大会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Sakaguchi, Masayasu
2. 発表標題 A Discussion on Strategies regarding 'Living Together': Focusing on the Perceptions of the 'Born-Free' Generation in the Republic of South Africa
3. 学会等名 The 58th Annual Meetings of the Japan Comparative Education Society
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 坂口真康
2. 発表標題 ナショナリズムに関わる歴史教育についての一考察 南アフリカ共和国の高等学校段階の歴史科の任意の教科書を手がかりに
3. 学会等名 日本教育社会学会第74回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Sakaguchi, Masayasu
2. 発表標題 Exploring the Concepts of "Equality," "Equity" and "Disparity" at School Education in the Republic of South Africa: A Case Study of Optionally Selected Grade 12 Life Orientation Textbooks
3. 学会等名 The 27th Japan Society for Africa Educational Research Conference
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Sakaguchi, Masayasu
2. 発表標題 A Discussion of Education Corresponding to “Globalisation” in the Republic of South Africa: A Case Study of Optionally Selected Life Orientation Textbooks of Senior High School Level
3. 学会等名 The 57th Japan Comparative Education Society Annual Conference
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 坂口真康
2. 発表標題 「共生」に関わる歴史教育に関する一考察 南アフリカ共和国における後期中等教育段階の歴史科のナショナルなカリキュラムとテストに焦点をあてて
3. 学会等名 日本社会学会第94回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 坂口真康
2. 発表標題 「共生教育」のナショナルな基準の評価に関する一考察 南アフリカ共和国のLife Orientationの試験を事例に
3. 学会等名 日本教育学会第79回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 坂口真康
2. 発表標題 高等学校段階の「共生教育」の教授内容に関する一考察 南アフリカ共和国のLife Orientationの教科書を手がかりに
3. 学会等名 日本教育社会学会第72回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 坂口真康
2. 発表標題 シティズンシップ教育に関わる学校教員の研修に関する一考察 南アフリカ共和国西ケープ州の教育省行政官と学校教員の認識に着目して
3. 学会等名 シティズンシップ教育研究大会2020
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 澤村信英・小川未空・坂上勝基編著	4. 発行年 2023年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 408
3. 書名 『SDGs時代にみる教育の普遍化と格差 各国の事例と国際比較から読み解く』	

1. 著者名 坂口真康	4. 発行年 2021年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 554
3. 書名 「共生社会」と教育 - - 南アフリカ共和国の学校における取り組みが示す可能性	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------